

法話

この命を生きる意味

迷いの世界である事を知らない私

貫名 謙 師

広島市 浄満寺住職

夏を生きるセミ

今年の夏は、本当に暑かったですね。私も外に出ただけで、どっと汗が吹き出すありさまでした。普段であれば、「おはようございます」「こんにちは」と挨拶を交わす方でも、第一声は「暑いですねえ」でした。この暑さに参ったのは、人間だけではないようです。夏を生きるセミも、日中はじっとしていて、夜のすずしくなった頃に活動をしていたようです。

さて、セミといえは、私は子どもの頃、夏休みになると毎日のようにセミを捕って遊んでいました。多いときには虫かごいっぱいになり、玄関先で「ジリジリ」「ミーン、ミーン」とセミの大合唱です。しかし、次の日にはほとんどセミが亡くなってしまいました。セミを無理やり捕ってきて、かごに押し込めておきながら、「セミはわずか1週間の命しかない。かわいそうだなあ。」

私には来年も再来年もあるのになあ」と他人事のように思っていました。

やがて大学に進み、それなりの大学生活を送っていました。だが、何かに一生懸命取り組むわけでもなく、平々凡々の毎日を送っていました。

ところが学生生活も後半にさしかかった頃です。授業でお聖教を読んでいて、かつて私がセミに向けた言葉が、そっくりそのまま私に突き返されたように感じました。それは、曇鸞大師が著された『往生論註』を読んでいたときのことです。

「『蟪蛄は春秋を識らず』といふがごとし。この虫あに朱陽の節を知らんや。知るものこれをいふのみ。」

これは、「セミ(蟪蛄)は夏しか生きられないので、春とか秋を知らない。夏以外の季節があることを知っているものが、セミは夏しか生きられないと言えるのだ」という意味です。

セミが鳴くたびに

私たちは、自分たちが生きているこの世のことしか知りませんし、見ていませんが、それでは、なぜ私がこの世に

生まれてきたのか、その本当の理由に気づくことができませぬ。

大学生活を適当に過ごしていた私は、夏しか知らないセミと同じだったのです。学生生活しか見ていなかった私は、学生生活の大切さを見失っていました。

「このままでは人生も無駄に終わってしまう。そう感じました。」

「どうにかしないと」思いましたが、いくら考えても私の力では何も見えてきません。それで、あらためてお聖教と向き合い、阿弥陀如来のみ教え、親鸞聖人の御ご領解を尋ねてみました。

親鸞聖人も若い頃、「どのようにならなうか」がわからず、迷っておられました。しかし、親鸞聖人は法然聖人との出会いを通して、阿弥陀如来のみ教えに出あわれました。そして、ご自身を凡夫(愚者)、この世を「火宅無常の世界」と見られ、お念仏の道を生きたかれました。

親鸞聖人は「わたしどもはあらゆる煩惱をそなえた凡夫であり、この世は燃えさかる家のようにたちまちに移り変わる世界であって、すべてはむなしくいつわりで、真実と

いえるものは何一つない。その中であって、ただ念仏だけが真実なのである」とおっしゃっていました。

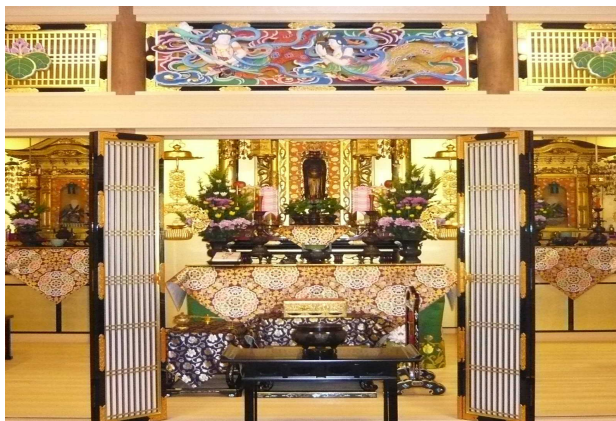
私は、「人は、阿弥陀如来のみ教えにあわせていただき、お念仏を称えさせていただき、少しづつだけけれども、この世の命を生きる意味に気づくことができるようになるのだ」と思えるようになりました。

今年もセミの声を聞きました。『往生論註』の意味とは少し違いますが、セミの鳴き声を聞くたびに、「私はこれでいいのか」と自問しています。セミに「私は今年の夏しか生きられない。でも今を一生懸命に生きているぞ。おまえも頑張れ！」と励まされているようにも感じています。

私たちは、「いま」をどのようにならなうか、とても重要になつてくると思います。親鸞聖人は「阿弥陀如来のみ教えにあわせていただくこと」によって、この世の命を終えたら、お浄土に往生させていただけなのです」と教えてくださいました。

親鸞聖人のみあとを慕い、お念仏の日暮らしを送りたいと思いつつ、暑かった夏の終わりを迎えるようとしています。

(本願寺新報 平成30年9月1日号掲載)



教誓寺

法要のお知らせ

秋期彼岸会法要

9月23日(日) 秋分の日

○法要 午後2時より

ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。ご一緒にお経を上げてお勤めいたしましょう

御彼岸の期間は

9月20日(木)～26日(水)です。

報恩講法要

報恩講は、浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事です。宗祖親鸞聖人が一二六二年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。本山では、一月に宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。

今年の教誓寺の報恩講は、都合により、十月の第三日曜日にお勤めすることにいたしました。例年と日程が異なりますので、くれぐれもお間違いの無い様にお願いたします。今年の報恩講も是非お参り下さい。

記

平成30年10月21日(日)

○法要 午後一時より

○法話

午後一時四〇分頃から

講師 本願寺派布教使

世田谷組 正法寺住職

白川淳敬 師

○時間があれば
腹話術などご披露したいと
考えております。
○報恩講料理(お齋・昼食)の

用意は、午前11時頃から出来
ますので、早めにいらして召
し上がって下さい。
○来年の浄土真宗カレンダー
をお持ち帰り下さい。
○お参りの時には門徒式章を
ご着用下さい。

住職より

暑い暑い暑い夏もようやく
過ぎたようです。
皆様は、体調など大丈夫で
しょうか。冷房を使い続けた
ので8月の電気代を見るのが
怖い所ですが、なんとか夏を
やり過ごせてほっとしていま
す。

9月に入り、台風・大風・
地震の被害を見るにつけ、防
災のための備えをしっかりと
なければと思うのですが、万
全と言えるまでにはまだ大分
遠いというのが実情です。良
いアドバイスをお願いします。

このお知らせがお手元に届
く頃は、秋のお彼岸・報恩講
も、もうすぐです。
最近、報恩講にお参りにな
る方が少なくなっています。
これも時代の変化なのかと思
いつつも、皆様にお参りいた
だけるように毎年工夫を重ね
ながら頑張っています。
是非ともお参りいただきた
いと切に思ってお待ち申し上
げおります。

7月の盂蘭盆会の時に、檀
家総代の大家様をお願いして、

「エンディングノートを活用
しよう」という短時間のセミ
ナーを開催しました。皆さん
真剣にお聞き下さり、開いて
良かったとよろこんでおあり
ます。

総代の大家様を第一弾とし
て、大二弾も門信徒の方々か
らお話を伺えないものかと考
えております。

ご自身の経験された事など
から、他の人に知っておいて
欲しいことや、役に立つ話し、
興味をそそられる話し等々を、
お話し下さいませんでしよ
うか。是非、住職に「こんな話
しだったら出来るよ」と教え
て下さい、お願いたします。
門信徒の皆様同士のコミュニ
ニケーションが広がり、お寺
を中心としたコミュニティが
作れたらどんなにうれしい事
でしょうか。

教誓寺維持会費

について 再

本年度も維持会費をご納入
下さり有り難うございます。
これからの方も早めにお願
い致します。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073

東京都港区三田 一―二―一―一

〇三(三四五)二二九

kyouseiji@js4.so-net.ne.jp